

畜産みやぎ

発行所
 仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号
 宮城県畜産協会
 電話 022-298-8473

編集発行人
 木村春雄

印刷所
 (株)東北プリント



4月19日 質量兼備の種雄牛「茂洋」号お披露目会

生産者代表の紹介 写真左から 全農みやぎ 木村春雄 運営会長
 「茂洋」号生産者 遠藤好洋 氏
 検定材料牛生産者 千葉美芳 氏
 検定材料牛肥育者 大友 学 氏
 宮城県 村井嘉浩 知事

もくじ

CONTENTS

平成18年度生乳需給状況及び 平成19年度計画生産について ……2・3	<畜試便り> 肉用牛生産者が待ち望んだ質量兼備の種雄牛「茂洋」…9
平成18年度家畜共済事業実績について ……4・5	実践大学校生の抱負 ……10
肉用牛生産者が待ち望んだ質量兼備の 種雄牛「茂洋」号のお披露目会について ……6	<衛生便り> 輸入乾草によるエンドファイト中毒 …10
平成18年度みやぎ総合家畜市場の 現状と今後の見通し ……7	第43回宮城県同志会 ホルスタイン共進会開催のお知らせ ……11
平成18年度生乳検査成績について ……8	「父の日には牛乳(ちち)を贈ろう!」 ……11
	New face ……12

みやぎの
 畜産情報
 発信基地

宮城県畜産協会ホームページ

URL <http://miyagi.lin.go.jp>
 Eメール info@mygchiku.or.jp



古紙パルプ配合率100%の再生紙と、
 植物性大豆油インキを使用しています。

平成18年度生乳需給状況及び平成19年度計画生産について

東北生乳販売農業協同組合連合会宮城支所
みやぎの酪農農業協同組合

平成18年度の全国の総受託乳量は、7,746,678トﾝ（前年比97.5%）で前年を2.5ポイント下回り、18年3月以降13ヶ月連続で前年を下回って推移しました。地域別の受託乳量をみると、北海道は6月以降は減産型へと移行し、10ヶ月連続で前年を下回って推移し、3,657,777トﾝ（前年比97.2%）と前年を2.8ポイント下回りました。一方、都府県については、4,088,900トﾝ（前年比97.8%）で前年を2.2ポイント下回り、16ヶ月連続前年割れで推移しています。

平成18年度全国受託乳量

(単位：トﾝ、%)

地区名	12月		1月		2月		3月		18年度計	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
北海道	301,911	95.4	308,595	96.9	280,743	98.0	310,036	99.0	3,657,777	97.2
都府県	336,487	97.5	345,434	98.0	318,485	97.1	357,272	97.8	4,088,900	97.8
全国	638,398	96.5	654,029	97.5	599,228	97.5	667,307	98.4	7,746,678	97.5

東北の総受託乳量は、695,200トﾝ（前年比97.6%）で前年を2.4ポイント下回りました。月別推移をみると、減産型計画生産ということもあり、全ての月が前年を下回って推移しました。特に、3月については、春休み期需給調整緊急（減産）対応にご協力いただいたこともあり各県とも大きな落ち込みとなりました。一方、用途別処理量は、飲用牛乳向けが504,722トﾝ（前年比96.8%）、はっ酵乳等向けが58,388トﾝ（前年比101.8%）、特定乳製品向けが94,283トﾝ（前年比96.3%）となりました。飲用牛乳向けについては、18年度に入っても前年を下回り続け、16年8月以降、32ヶ月連続で前年を下回り、依然として飲用需要の回復傾向はみられず深刻な

平成18年度東北生乳受託販売実績

(単位：kg、%)

県	12月		1月		2月		3月		18年度計	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
青森	6,746,611.0	97.1	6,748,175.0	97.5	6,372,879.0	98.7	6,839,240.0	96.0	79,169,328.0	96.6
岩手	19,605,685.0	97.6	19,679,627.0	98.9	18,225,331.0	99.3	20,218,803.0	98.5	233,732,833.0	97.8
宮城	12,227,528.0	97.5	12,504,734.0	97.1	11,586,249.0	97.7	12,846,947.0	96.8	148,156,626.0	97.3
秋田	2,833,968.0	96.9	2,895,550.0	98.1	2,630,204.0	95.8	2,954,419.0	93.6	34,723,649.4	98.5
山形	7,452,982.4	98.1	7,462,157.3	97.3	6,927,067.1	98.1	7,756,361.4	96.6	90,870,367.8	98.6
福島	9,028,809.0	97.1	9,254,350.0	99.1	8,392,995.0	97.2	9,240,022.0	93.9	108,547,469.0	97.4
計	57,895,583.4	97.5	58,544,593.3	98.2	54,134,725.1	98.2	59,855,792.4	96.6	695,200,273.2	97.6

状況が続いています。はっ酵乳向けについては、18年度に入り前年割れする月がみられるものの、16、17年度に引き続き全体として好調に推移しました。特定乳製品向けについては、18年度当初は前年を上回って推移していましたが、8月以降は前年を下回って推移し、前年比96.3%と前年を下回りました。

平成18年度東北用途別販売実績

(単位：kg、%)

県	月	12月		1月		2月		3月		18年度計	
			前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
総受託販売乳量		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
飲用等向け	飲用牛乳向け	40,284,870.4	97.7	40,175,702.3	98.0	38,314,592.1	98.5	38,921,111.4	98.3	504,722,781.9	96.8
	(うち学乳向け)	2,721,818.2	96.2	2,654,881.1	99.6	3,386,540.4	90.3	1,983,193.2	93.9	33,590,272.4	95.9
	はっ酵乳等向け	4,183,235.0	96.1	4,651,169.0	109.1	4,869,816.0	108.8	5,515,460.0	111.8	58,388,580.3	101.8
乳製品向け	特定乳製品向け	8,790,153.0	92.4	10,837,193.0	91.5	7,972,861.0	89.3	11,822,683.0	81.8	94,283,617.0	96.3
	(うち委託加工向け)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生クリーム等向け	4,272,337.0	111.4	2,455,654.0	117.8	2,600,332.0	110.4	3,164,104.0	124.2	32,762,802.0	109.5
チーズ向け		359,098.0	75.8	418,985.0	92.9	371,804.0	85.4	426,544.0	98.2	4,969,062.0	93.6
全乳哺育向け		5,890.0	82.6	5,890.0	82.6	5,320.0	82.6	5,890.0	82.6	73,430.0	87.5

宮城県の総受託乳量は、148,156トﾝ(前年比97.3%)で前年を2.7ポイント下回り、生乳計画生産目標数量149,658トﾝに対しては、1,501トﾝの未達となりました。18年度は東北の状況と同様にすべての月が前年を下回って推移し、7月以降は大きな落ち込みとなりました。

平成18年度宮城県販売実績

(単位：kg、%)

組合名	項目	販売乳量	前年比	進捗率	未達・超過	前年実績	目標数量
みやぎの		80,779,517	97.10	98.20	△ 1,499,408	83,193,853	82,278,925
全農宮城		25,205,367	95.99	98.50	△ 387,633	26,259,275	25,593,000
宮城酪農		42,171,742	98.51	100.90	385,660	42,808,941	41,786,082
宮城県		148,156,626	97.30	99.00	△ 1,501,381	152,262,069	149,658,007

最後に、18年度の生乳需給も大変に厳しいものがありました。牛乳、乳製品の需要低迷により脱脂粉乳在庫が依然として高い水準であること、また、バターについても、昨年度は在庫を積み増すなど需給が緩和傾向にあり、脱脂粉乳在庫問題と合わせて解決しなければならない課題であります。

こうしたなかで、19年度の生乳計画生産につきましても牛乳消費がさらに減少すると見込まれることなどから、18年度と同様、減産型計画生産に取り組むことになりました。需給の安定のためには、需要に見合った生産が基本ということはいまでもありませんが、生産者の皆さんは、2年連続の減産型計画生産や飼料価格の高騰など厳しい状況に直面しており、その苦労は並大抵ではないと承知しております。一方、19年度末からは北海道で新設・増設が進むチーズ工場も稼働するなど、明るい兆しも見えつつあります。

もちろん、飲用牛乳を主体とした消費拡大は引き続き重要な課題であり、安全で安心な県内産生乳を最大限活用し、酪農の価値を高めつつ、販路の拡大に努めてまいりますので、酪農家の皆さんにとっては、大変苦しい時期とは思いますが、足腰の強い酪農経営が実現出来るよう、一緒に頑張っていきたいと思います。

(業務課 菅原 久義)

平成18年度家畜共済事業実績について

NOSA | 宮城 家畜課

平成18年度の家畜共済の引受並びに事故実績について報告いたします。

〔引受〕

大家畜について、頭数では前年度より808頭減少の131,164頭、共済金額では4,246万円減少の201億9,350万円となりました。畜種別に見ると、その他の肉用牛（繁殖牛）で和子牛価格が堅調に推移したこと等により引受増加となりましたが、乳牛と肥育牛において、飼養者の高齢化や後継者不足により飼養頭数が減少したことや経済的理由等により引受減少となりました。

中家畜について、頭数では前年度より568頭減少の7,666頭、共済金額では921万円減少の1億2,288万円となりました。

これにより、合計での引受頭数は138,830頭（前年対比99.0%）、共済金額は203億1,637万円（前年対比99.7%）となりました。

家畜共済引受実績は表1のとおりです。

表1 家畜共済引受実績

家畜の種類等	平成18年度		平成17年度		増減	
	頭数 頭	共済金額 円	頭数 頭	共済金額 円	頭数 頭	共済金額 円
乳牛の雌	26,856	3,323,262,605	27,059	3,461,826,859	△ 203	△ 138,564,254
（成乳牛）	18,905	3,001,406,396	19,901	3,172,026,962	△ 996	△ 170,620,566
（育成乳牛）	2,339	166,961,272	2,329	157,139,618	10	9,821,654
（乳用子牛）	367	23,143,857	244	15,802,371	123	7,341,486
（乳用胎児）	5,245	131,751,080	4,585	116,857,908	660	14,893,172
肥育牛	30,275	5,132,159,106	32,397	5,275,386,032	△ 2,122	△ 143,226,926
（肥育用成牛）	28,903	5,022,446,017	30,531	5,136,673,638	△ 1,628	△ 114,227,621
（肥育用子牛）	1,372	109,713,089	1,866	138,712,394	△ 494	△ 28,999,305
その他の肉用牛	73,988	11,723,018,941	72,472	11,484,009,709	1,516	239,009,232
（その他の肉用成牛）	37,706	8,387,378,555	36,645	8,395,265,533	1,061	△ 7,886,978
（その他の肉用子牛）	5,776	675,224,832	5,508	634,383,659	268	40,841,173
（その他の肉用胎児）	30,506	2,660,415,554	30,319	2,454,360,517	187	206,055,037
肉用種雄牛	14	5,320,000	11	3,510,000	3	1,810,000
一般馬	31	9,735,000	33	11,226,370	△ 2	△ 1,491,370
大家畜計	131,164	20,193,495,652	131,972	20,235,958,970	△ 808	△ 42,463,318
種豚	1,091	65,921,000	1,162	69,802,250	△ 71	△ 3,881,250
肉豚	6,575	56,956,400	7,072	62,280,800	△ 497	△ 5,324,400
中家畜計	7,666	122,877,400	8,234	132,083,050	△ 568	△ 9,205,650
合計	138,830	20,316,373,052	140,206	20,368,042,020	△ 1,376	△ 51,668,968

〔事故〕

死産事故について、頭数では前年度より481頭減少の5,742頭、支払共済金では4,360万円減少の6億1,195万円となりました。病類別の事故状況については、乳用牛は運動器病、消化器病や妊娠分娩期及び産後の疾患が、肉用牛は消化器病や新生子異常による事故が多く発生しております。家畜共済死産事故実績は表2のとおりです。

表2 家畜共済死廃事故実績

家畜の種類等	平成18年度		平成17年度		増減	
	頭数 頭	支払共済金 円	頭数 頭	支払共済金 円	頭数 頭	支払共済金 円
乳牛の雌	2,217	306,278,177	2,279	317,620,928	△ 62	△ 11,342,751
(成乳牛)	1,893	295,415,441	2,021	309,578,632	△ 128	△ 14,163,191
(育成乳牛)	35	2,483,767	34	2,115,477	1	368,290
(乳用子牛)	5	348,380	4	194,972	1	153,408
(乳用胎児)	284	8,030,589	220	5,731,847	64	2,298,742
肥育牛	874	115,384,200	872	124,651,881	2	△ 9,267,681
(肥育用成牛)	751	106,903,607	709	115,087,733	42	△ 8,184,126
(肥育用子牛)	123	8,480,593	163	9,564,148	△ 40	△ 1,083,555
その他の肉用牛	1,469	174,977,092	1,621	193,970,599	△ 152	△ 18,993,507
(その他の肉用成牛)	358	75,993,001	414	88,922,961	△ 56	△ 12,929,960
(その他の肉用子牛)	96	10,941,304	98	10,261,541	△ 2	679,763
(その他の肉用胎児)	1,015	88,042,787	1,109	94,786,097	△ 94	△ 6,743,310
肉用種雄牛	1	120,000	1	240,000	0	△ 120,000
一般馬	0	0	3	1,590,860	△ 3	△ 1,590,860
大家畜計	4,561	596,759,469	4,776	638,074,268	△ 215	△ 41,314,799
種豚	122	6,699,951	135	7,185,326	△ 13	△ 485,375
肉豚	1,059	8,491,538	1,312	10,287,144	△ 253	△ 1,795,606
中家畜計	1,181	15,191,489	1,447	17,472,470	△ 266	△ 2,280,981
合計	5,742	611,950,958	6,223	655,546,738	△ 481	△ 43,595,780

病傷事故について、件数では前年度より647件増加の63,267件、支払共済金で288万円減少の7億9,878万円となりました。病類別の事故状況については、乳用牛は生殖器病や泌乳器病が、肉用牛は消化器病、生殖器病や呼吸器病による事故が多く発生しております。家畜共済病傷事故実績は表3のとおりです。

表3 家畜共済病傷事故実績

家畜の種類等	平成18年度		平成17年度		増減	
	件数 頭	支払共済金 円	件数 頭	支払共済金 円	件数 頭	支払共済金 円
乳牛の雌	18,270	290,008,828	18,362	304,573,146	△ 92	△ 14,564,318
(成乳牛)	16,947	279,397,608	17,275	295,351,098	△ 328	△ 15,953,490
(育成乳牛)	691	5,735,166	652	5,578,828	39	156,338
(乳用子牛)	37	301,380	34	347,190	3	△ 45,810
(乳用胎児)	595	4,574,674	401	3,296,030	194	1,278,644
肥育牛	11,648	130,842,376	11,780	131,533,787	△ 132	△ 691,411
(肥育用成牛)	10,487	120,958,926	10,584	118,020,665	△ 97	2,938,261
(肥育用子牛)	1,161	9,883,450	1,196	13,513,122	△ 35	△ 3,629,672
その他の肉用牛	33,178	377,013,060	32,291	364,494,017	887	12,519,043
(その他の肉用成牛)	16,577	152,279,157	16,379	150,142,349	198	2,136,808
(その他の肉用子牛)	2,944	35,778,532	2,738	34,469,454	206	1,309,078
(その他の肉用胎児)	13,657	188,955,371	13,174	179,882,214	483	9,073,157
肉用種雄牛	3	25,850	1	5,710	2	20,140
一般馬	14	82,860	17	145,880	△ 3	△ 63,020
大家畜計	63,113	797,972,974	62,451	800,752,540	662	△ 2,779,566
種豚	154	811,290	169	910,440	△ 15	△ 99,150
中家畜計	154	811,290	169	910,440	△ 15	△ 99,150
合計	63,267	798,784,264	62,620	801,662,980	647	△ 2,878,716

[まとめ]

家畜の死廃、疾病等による畜産農家の経済的損失は少なくありません。NOSA Iとしては関係機関、団体と連携し、事故防止と生産性向上の支援に努めていきたいと考えています。経営安定のため家畜共済への加入をお勧めし、家畜共済事業実績の報告とします。

肉用牛生産者が待ち望んだ質量兼備の種雄牛「茂洋」号のお披露目会について

宮城県農林水産部畜産課

1. 種雄牛の概要

平成19年3月20日に行われた、宮城県肉用牛改良委員会で、宮城県畜産試験場が繋養している肉用牛黒毛和種の種雄牛「茂洋」(しげひろ)が、現場後代検定において、肉の質を示す脂肪交雑についても、肉の量を示す枝肉重量についても全国平均を大きく上回る、極めてすばらしい成績を残したことで、県基幹種雄牛として選抜されました。

2. 種雄牛の検定成績

	①枝肉重量 (kg)	②ロース芯の太さ (cm ²)	③バラの厚さ (cm)	④脂肪交雑(サシ) (BMS No.)
茂洋	444.9	63.9	7.7	7.42
全国平均	421.0	52.4	7.46	5.03

※全国平均は、平成17年度の検定牛の平均値

3. お披露目会

去る4月19日、宮城県と全農宮城県本部の主催により、県庁18階「ごっつお十八番」を会場に、生産者や関係団体等をお招きして、お披露目会を開催しました。

村井知事からは「質量兼備の種雄牛“茂洋”号を肉用牛生産に活用することで、優良牛増産に弾みをつけ、仙台牛のより一層の名声を高めるものと強く期待する」との挨拶をいただき、「茂洋」生産に携わった生産者の表彰などを行いました。



最後に“茂洋”号産子でA5等級の最高級のお肉を使ったステーキ、しゃぶしゃぶ、ローストビーフなどの料理を参加者全員が試食し、仙台牛の味を堪能しました。

当日は、関係機関、生産者及び消費者の方々と多くの報道関係者合計約100名に参加をいただきました。お披露目会の様子は、テレビ局各社の当日のニュースで報道されるとともに、新聞にも大きな紙面で紹介されました。

4. 「茂洋」号の利用について

本種雄牛の父牛は、宮城県を代表する種雄牛「茂勝」であり、母牛は第7系桜の息牛である「糸晴波」、「糸花」の交配により生産されています。本牛は「茂重波」の血液の濃い父牛と「第7系桜」の血液の濃い母牛との異系統間の組み合わせとなっています。

従って本牛の交配については、「茂勝」、「茂重波」の娘牛との交配は近交係数が高くなるので、注意が必要です。「茂糸波」、「茂糸桜」、「第2波茂」、「奥茂」、「奥北茂」、「宮福茂」等本県の基幹種雄牛の娘牛や、「北国7の8」、「紋次郎」、「菊谷」等の娘牛、鹿児島や宮崎からの導入牛との交配には有効と考えられます。



「茂洋」号の人工授精用精液については、3月から供給を開始したものの、その能力への期待から予約注文が殺到し、供給可能量を大きく上回っているため、一人あたりの配布本数に上限を設けておりますので、計画的な利用をお願いいたします。

(生産振興班 猪股 永治)

平成18年度みやぎ総合家畜市場の現状と今後の見通し

全農宮城県本部畜産部
みやぎ総合家畜市場

平成18年度みやぎ総合家畜市場の子牛取引頭数は20,360頭で、前年対比103%の実績となりました。この取引頭数は、表-1で示すように過去10年間の取引実績から見ても、平成11年以来の2万頭台を超える取引頭数となりました。また、表-2に示すように18年度県内出荷J A別の子牛取引実績を見ると、ほとんどの地域で生産基盤拡大に積極的に取り組んでいることがうかがえます。

更に、子牛市場取引価格は、国内の牛肉不足に対応して牛枝肉価格が高水準価格で推移し、肉牛出荷に伴う回転導入が旺盛な需要となる中、慢性的に素牛不足が続き子牛取引価格は活発に取引され、年間取引平均価格は、502,164円と近年の取引平均価格から見ても最高価格で推移いたしました。

このような市場を支えた購買者の特徴としては、大手業種等の大口購買者の参入が増えており、依然として質・量兼備のニーズを求める傾向が続いています。

表-1 子牛市場取引価格の推移(宮城県)

	取引頭数		平均価格(雌)	平均価格(去)	平均価格
平成9年	21,817		347,141	434,441	393,754
平成10年	21,338	↘	352,636	422,035	390,286
平成11年	20,378	↘	349,917	435,818	394,569
平成12年	19,887	↘	369,419	445,366	411,462
平成13年	19,463	↘	319,028	374,206	349,042
平成14年	19,997	↗	353,875	421,417	389,542
平成15年	19,880	↘	366,206	454,686	413,116
平成16年	19,554	↘	400,684	498,327	453,708
平成17年	19,687	→	428,231	527,412	481,862
平成18年	20,360	↗	444,669	551,117	502,164

表-2 平成18年度子牛取引実績(平成18年4月~平成19年3月)

出 荷 元	前年同期対比(%)	平成18年度実績頭数	平成17年度実績頭数
市場全体	103%	20,360	19,681
J A みやぎ登米	104%	5,037	4,829
J A 栗っこ	100%	3,705	3,695
J A みどりの	103%	2,608	2,526
J A 加美よつば	106%	1,830	1,727
J A みやぎ仙南	99%	1,435	1,445
J A いわでやま	103%	1,322	1,287
J A いしのまき	100%	1,295	1,292
J A 南三陸	108%	988	916
J A 古川	107%	617	576
J A あさひな	101%	526	520
J A 仙台	113%	366	324
宮城県農業公社	154%	316	205
J A みやぎ亘理	104%	165	158
J A 全農みやぎ	95%	105	110
岩出山牧場	67%	36	54
J A 名取岩沼	53%	9	17

次に、19年度子牛価格動向は肉牛の需要動向(枝肉価格)が主たる要因となりますが、これとは別に飼料作物のエタノール生産拡大による飼料価格の値上げ問題、輸入牛肉条件の撤廃の動き、生産頭数の伸び悩みによる素牛不足の慢性化、少子化問題による消費の伸び悩み等による多種多様な要素が密着に関係し価格に反映されることが予想されます。

また、今年度10月鳥取県において開催される、第9回全国和牛能力共進会における本県出品牛の入賞によって、今後宮城県産和牛のブランド化に大きく影響を及ぼし、子牛市場取引価格に大きく反映されることも想定されます。

今後、さらに現在の畜産情勢を踏まえて、担い手の育成確保、国際化に対応し得る畜産経営の確立、さらに畜産物の「安全・安心」の確保などの対応方向が示される中、肉用牛繁殖基盤強化を図りながらその現実に向けた積極的な取組みが重要と考えます。(畜産部 菅原 勝則)

平成18年度 生乳検査成績について

社団法人 宮城県畜産協会

宮城県内の酪農家戸数は平成19年3月現在826戸で、昨年同月の866戸より40戸減少しております。また、県内の集乳路線は3月現在で93路線となっております。

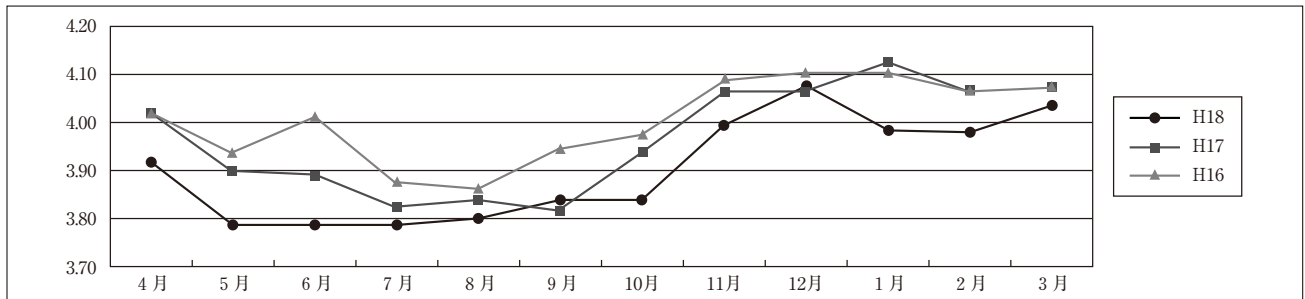
この集乳路線毎に毎月成分及び体細胞数検査を行っており、平成16年度から18年度までの成績を報告いたします。

脂肪率(図表1)は、平均値で平成18年度が3.90%となっており、暖冬の影響が非常に大きく出ております。県の目標値は3.70%となっております。

(図表1) 脂肪率

(単位 %)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
H.18	3.92	3.79	3.79	3.79	3.80	3.84	3.84	3.99	4.08	3.98	3.95	4.04	3.90
H.17	4.02	3.89	3.88	3.80	3.82	3.79	3.93	4.07	4.07	4.14	4.07	4.08	3.96
H.16	4.02	3.93	4.01	3.86	3.84	3.94	3.97	4.10	4.12	4.12	4.07	4.08	4.01

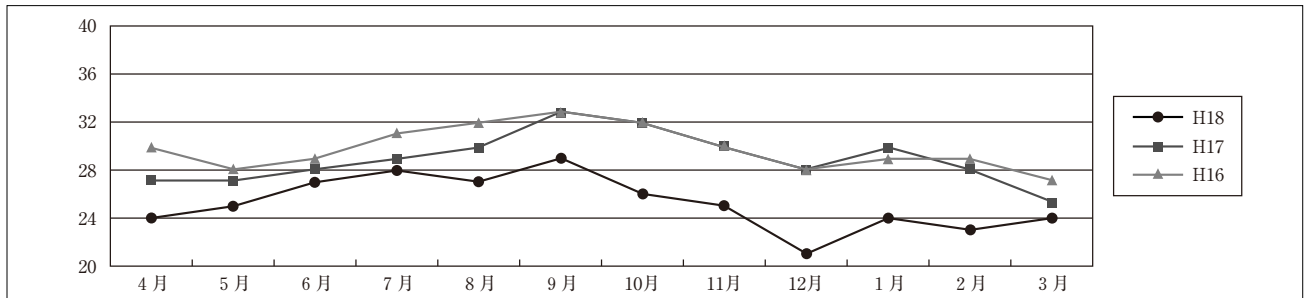


体細胞数(図表2)は、平均値が平成16年度で30万/mlで平成18年度では25万/mlとなっており、減少傾向にあります。県の目標値は15万/mlとなっております。

(図表2) 体細胞数

(単位 万/ml)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
H.18	24	25	27	28	27	29	26	25	21	24	23	24	25
H.17	27	27	28	29	30	33	32	30	28	30	28	25	29
H.16	30	28	29	31	32	33	32	30	28	29	29	27	30



平成19年4月より、広域検査体制実施に伴い、東北地方では(社)岩手県畜産協会が生乳の検査が実施されております。

生産者及び関係団体の皆様には、これまで多大なるご支援、ご協力を頂きまして、心からお礼を述べさせていただきます。(家畜改良課)

〈畜試便り〉

肉用牛生産者が待ち望んだ質量兼備の種雄牛「茂洋」

宮城県畜産試験場

畜産試験場で繋養している種雄牛「茂洋」は、現場後代検定注)において極めて素晴らしい成績を残し、平成19年3月20日に行われた宮城県肉用牛改良委員会で、本県の基幹種雄牛に選抜されました。

「茂洋」は、県内肉用牛の改良に広く活用することにより、本県肉用牛の生産推進と農家の経営安定化に貢献できる種雄牛であり、今後の優良牛増産に弾みをつけ「仙台牛」の一層の名声を高めるものと期待されています。

茂洋のプロフィール

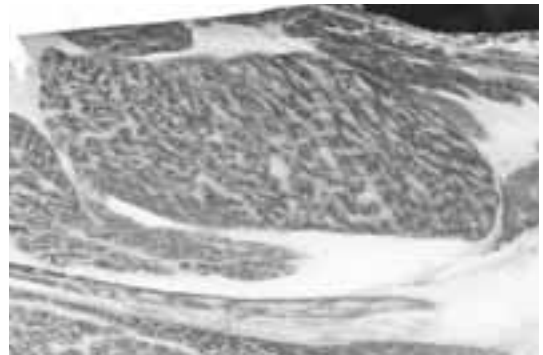
「茂洋」は、平成13年1月9日桃生町(現:石巻市)の遠藤好洋さん宅で誕生しました。父牛は宮城県を代表する「茂勝」であり、母牛「こごさ」は第7糸桜の息牛である「糸晴波」、「糸花」の交配により生産されました。

本牛は肉質に優れた「茂重波」の血液の濃い父牛と、増体に優れた「第7糸桜」の血液の濃い母牛との異系統を組み合わせた種雄牛です。

「茂洋」は体型にも優れ、体深、中軀幅、尻を美点とし、第8回全国和牛能力共進会岐阜県大会にも出品されました。



質量兼備の種雄牛「茂洋」



産子の枝肉 (BMSNo.10、A5)

茂洋の検定成績

現場後代検定として用いられた「茂洋」の産子19頭は、枝肉重量444.9kg、ロース芯面積63.9cm²、脂肪交雑(BMSNo.) 7.4、A5率62.9%と県歴代トップクラスの高成績となりました。特に枝肉重量は県歴代1位で、これまで茂重波系統の課題であった高い増体能力も兼備しています。

表-1 現場後代検定成績 (検定牛19頭平均)

	①枝肉重量 (kg)	②ロースの太さ (cm ²)	③バラの厚さ (cm)	④脂肪交雑 (サシ) (BMS No.)
茂 洋	444.9	63.9	7.7	7.4
全国平均	421.0	52.4	7.5	5.0

- ①枝肉重量 (重い方がよい) ②ロースの太さ (大きい方がよい)
③バラの厚さ (厚い方がよい) ④脂肪交雑 (高い方がよい)

全国平均は、平成17年度の検定牛の平均値。

期待される交配

「茂洋」の産子は増体能力にも優れていることから、奥北茂、茂糸桜、第2波茂、茂糸波など本県基幹種雄牛の娘牛や第1花国、北国7の8、紋次郎、菊谷等の娘牛との交配が推奨される他、鹿児島・宮崎からの導入牛との交配もお勧めできます。

なお、「茂勝」、「茂重波」の娘牛との交配は近交係数が高くなるので注意が必要です。

注) 現場後代検定：種雄牛の産子を通常の肥育管理の下で肥育し、後代(産子)に伝わる遺伝能力を判定。
(酪農肉牛部肉牛チーム 小堤知行)

〈実践大学校生の抱負〉

私の将来の夢

宮城県農業実践大学校畜産学部
2年 酪農専攻 阿部 俊幸



私の家（南三陸町）では、酪農（経産牛8頭、育成牛6頭）と肉用牛（繁殖牛10頭、子牛8頭）の複合経営を行っています。私はこの宮城県農業実践大学校を卒業後すぐに実家に戻り家の経営を引き継ぎたいと考えています。

以前は、主に私の祖父が経営を行っていましたが、年齢のこともあり今では私の母が主に酪農の経営を行い、繁殖を祖父母が行っていますが、将来的には私が酪農を引き継ぎ、繁殖を母が行う予定です。

経営的には現在の状況では急激な増頭が出来ないため、私が就農後は導入を出来る限りせずに自家産牛のみで増頭をして最終的には繁殖牛18頭、酪農経産牛15頭未経産牛8頭の規模まで増頭したいと考えています。

しかし、今使っている乳牛舎では最高20頭までしか経産牛をおくことが出来ないのです。まずは30頭規模の牛舎が必要なので、はじめの目標としては徐々に増頭をしながら30頭規模の牛舎を建てるのが目標です。

さらに、宮城県農業実践大学校で家畜人工授精師の資格と削蹄師の資格の取得を考えています。私の住んでいる地域では削蹄師の資格を取得している人がおらず削蹄を行う時には隣町の削蹄師の方を呼んで削蹄を行っているのが現状であるため私が削蹄師の免許を取得し、地域に根付く削蹄師になればと考えています。

家畜人工授精に関しては削蹄師同様、取得している人が少ないため獣医師に頼んでいる人が多いため、私が家畜人工授精師の資格を取得して町の農業の発展に貢献したいと考えています。

〈衛生便り〉

輸入乾草によるエンドファイト中毒

仙台家畜保健衛生所

エンドファイト（内生菌）とは、植物の中で寄生し、共生している真菌や細菌のことで、一般にはイネ科植物に寄生する真菌を指します。このうち、家畜の中毒に関連するものは、トールフェスクと、ペレニアルライグラスに寄生する種類があります。

エンドファイトが産生する物質のうち、エルゴバリンとロリトレムBが中毒を引き起こします。エルゴバリンは、血管収縮作用を持ち、夏期では体熱の放出が出来なくなり、体温の上昇、呼吸数の増加、唾液分泌の亢進や、受胎成績の悪化、泌乳量の減少などが発生します。冬季では、身体の末端部に血行障害が発生し、耳や尾の先、蹄などに壊疽が起こり脱落します。ロリトレムBは神経毒性があり、軽度では、激しい運動後の頸部の痙攣や歩行異常、重度になると激しい痙攣を引き起こします。

エンドファイトに感染した植物は、病害虫や環境ストレスに対する抵抗性が強くなるため、アメリカの一部の地域では園芸用芝草品種に人工的に感染させています。そして、種子収穫後のストローを飼料として活用し、「フェスクストロー」「イタリアンストロー」という名称で販売することがあるので注意が必要です。

ある程度以上の毒素を摂取しなければ中毒症状は発現しないので、これらのストロー類すべてを、給与してはならないものではありません。エンドファイトによる中毒を防ぐためには以下の点に注意してください。①購入する際に、牧草の品種・生産地を確認する②輸出業者で、上記の中毒物質をチェックしている場合があるので確認する③粗飼料給与は1種類ではなく、複数混合給与する。

疑われる症状が発生した場合は、ただちに給与を中止し、診療獣医師および最寄りの家畜保健衛生所に連絡してください。（病性鑑定班 加藤 里子）

第43回宮城県同志会 ホルスタイン共進会開催のお知らせ

宮城県ホルスタイン改良同志会

ホルスタイン種の改良、普及、奨励と育成技術の改善を促進し、併せて会員の親睦を図り本県ホルスタイン種の改良増殖に資することを目的とした、第43回宮城県同志会ホルスタイン共進会を下記のとおり開催することとなりました。

43年目を迎え、ホルスタイン種改良の成果をご覧いただきたく、多数ご来場下さいますようご案内申し上げます。

記

- 1 開催日 平成19年 6月18日(月)
午前 9時50分開会
- 2 場 所 みやぎ総合家畜市場 (美里町)
- 3 審査員 全国協議会認定ジャッチマン
細野 淳 氏 (協同飼料株式会社)
- 4 出品区分及び出品予定頭数

第1部	生後12ヶ月未満	未經産	12頭
第2部	生後12ヶ月以上～16ヶ月未満	〃	11頭
第3部	生後16ヶ月以上～20ヶ月未満	〃	11頭
第4部	生後30ヶ月以上	〃	11頭
第5部	生後30ヶ月未満	経 産	11頭
第6部	生後20ヶ月以上～36ヶ月未満	〃	11頭
第7部	生後36ヶ月以上～48ヶ月未満	〃	11頭
第8部	生後48ヶ月以上～60ヶ月未満	〃	11頭
第9部	生後60ヶ月以上	〃	11頭
出品予定頭数合計			100頭

(事務局 社団法人 宮城県畜産協会家畜改良課)

「父の日には牛乳(ちち)を贈ろう！」

東北酪農青年婦人会議

東北酪農青年婦人会議(黒沢寛寿委員長)では、今年も牛乳消費拡大キャンペーン「父の日には牛乳(ちち)を贈ろう！」を実施します。

このキャンペーンは、栄養価に優れた牛乳の素晴らしさを生産者自らが消費者にアピールし、健康な身体づくりのため牛乳をもっと飲んでもらおうという目的で始まりました。

「父の日」を選んだのは、一つには「ちち(父)＝ちち(牛乳)」の語呂合わせが誰にでも覚えやすいこと。もう一つは、毎日遅くまで働きストレスのたまったお父さんの健康管理には、イライラを抑えるカルシウムがたっぷり栄養バランスに優れ、忙しい時でも手軽に飲める牛乳が最適だからです。

もちろんお父さんだけでなく、家族で牛乳の素晴らしさを再認識していただき、お母さんは美容のため、子供たちは丈夫な身体づくりのため、そしておじいちゃん、おばあちゃんは長寿のためにと、家族全員で牛乳を飲んでもらいたいという願いもあります。

昨年は、村井知事への牛乳贈呈、そして仙台市青葉区にあるクリスロード商店街・ダイエー仙台店前にて牛乳の無料配布を実施しました。その結果、「生産者自らの牛乳消費拡大キャンペーン」としてテレビ・新聞などマスコミにも大きく取り上げられ、話題となりました。

今年も、昨年同様に宮城県庁畜産課、宮城県牛乳普及協会、東北生乳販売農業協同組合連合会のご協力をいただき、6月7日(木)は村井知事への牛乳の贈呈式、6月14日(木)は仙台市青葉区にあるさくら野百貨店1階にて同キャンペーンのグッズ(お父さんへ手渡すメッセージカード、バッジ、ステッカーなど)や牛乳を使ったフルーツドリンク・料理のレシピ冊子、そして牛乳の無料配布などを予定しています。

同時に、東北酪農青年婦人会議では、東北各県の県庁所在地を中心に同キャンペーンの実施を予定しています。

少子高齢化や茶系・機能性飲料との競合により消費低迷が続く牛乳ですが、こうしたキャンペーンにより一人でも多くの消費者に牛乳の素晴らしさを知っていただき、毎日の健康管理のために牛乳をもっと飲んでいただきたいものです。

(事務局 全酪連仙台支所指導組織課 石本)

NAR 地方競馬全国協会 岩手競馬(盛岡・水沢開催)7・8月 開催予定表

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
7月	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
	盛岡						盛岡						盛岡						盛岡												水沢
8月	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
				水沢											水沢																

※開催期間中の重賞レース

- ・7/1(日) 第39回 岩鷲賞(盛岡) ・7/15(日) 第29回 せきれい賞(盛岡) ・7/16(月) 第11回 マーキュリーカップ(盛岡)
- ・7/22(日) 第8回 オパールカップ(盛岡) ・8/15(水) 第12回 クラスタールカップ(水沢)
- ・8/19(日) 第39回 不來方賞(水沢) ・8/26(日) 第33回 ビューチフル・ドリーマーC(水沢)

〈New face〉

宮城県農林水産部畜産課
後藤 司朗



はじめまして、平成19年度から県庁畜産課企画管理班に配属となりました、後藤司朗と申します。私は生まれも育ちも宮城県仙台市で、両親も宮城県出身という生粋の宮城県人です。今年の3月に東北大学経済学部を卒業したばかりで、社会人としての自覚も常識もまだまだ未熟者ですが少しずつでも成長していけるように努力していきたいと思っています。

大学時代に勉強していたのは主に経営学で、特に所属していたゼミでは金融商品の評価や資産の価値変動など学んでいました。大学ではこれらのようなことを学んでいましたが、私は農業に関わる仕事をしてみたいと思っていましたし、面接でもそのように希望を言っていたので畜産課に配属されたことは驚きではなく、むしろ嬉しく感じています。ではなぜ事務職採用の私が農業に関わる仕事を希望していたかということ、農家の仕事を目の前で見て、多少なりとも触れてきたことがあると思います。私の母の実家は農家で、現在も米をつくっていますし、昔は豚や鶏も飼っていて、忙しい時期などにはよく手伝いに行っていました。実際に触れてみて、それまでは何とも思っていなかった、日本の「食」を支える農業の重要さを認識しました。第二次産業から第三次産業へと時代が流れていくなかで、第一次産業を軽視するのではなくもう一度見つめ直すことができる仕事をやってみたいと思っていました。私は事務職なので、最終的には様々な職種を経験したいと思っていますが、最初に配属された場所の仕事は強く記憶に残ると思いますし、その後の仕事にも影響を与えらると思うので、この畜産課で多くのことを学び、吸収したいと思っています。

先にも述べましたが、今は右も左も分からず周りの先輩方に迷惑をかけてばかりですが、早く一人前になれるように努力していきたいと思っていますので、今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。

〈New face〉

NOSA I 宮城 中央家畜診療センター
加瀬 瞳



本年度よりNOSA I 宮城(宮城県農業共済組合連合会)に獣医師として勤務しております加瀬瞳と申します。4月から家畜診療研修所での研修を受け、5月から大崎市の中央家畜診療センターに配属になりました。出身は千葉県旭市で、青森県十和田市の北里大学獣医畜産学部獣医学科を卒業しました。

大学に入学した当初は大動物の獣医師になるとは思っておらず、今こうしてNOSA I 獣医師として勤務していることに私自身驚いております。大学では大動物内科学研究室に所属し、大学に搬入される牛の診療や、牛の免疫について研究し、生産獣医療に興味を持ったことから、しだいに大動物の獣医師を志すようになりました。

現在、私は先輩獣医師の往診に付いて回らせていただいております、現場での診療の基礎を学んでいます。初めての土地で、まだ方言にも慣れず、戸惑うことも多いのですが、毎日新しい知識が増え、充実した日々を送っております。研修期間中に診療に必要な技術や知識をしっかりと習得し、早く農家の方々に還元できるように努力していきたいと考えております。

これから、農家の方々や牛と触れ合いながら経験を積んでいき、人間として獣医師として成長していきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

